

発達障害児者のライフプランニングに関する研究

清水浩

(山形県立米沢女子短期大学社会情報学科)

KEY WORDS: 発達障害児者 ライフプランニング 就労生活

(目的)

近年、障害者を取り巻く障害者福祉制度の多くが改正され、障害者の就労支援と職場定着に向けた施策等の充実が図られてきている。このように、障害者の各ライフステージに対応できる制度が整ってきたことと併せて、障害者の就労生活の広がりや安定が図られてきている。

島田ら(2013)は、生涯教育プログラムに参加した知的障害者を対象に、10年後の自分を想定したライフプランに関するアンケート調査を実施した。この結果では、将来への意見聴取に関して7割近くの者が「聞いて欲しい」と回答、また、6割以上が将来への不安を感じていた。このような知的障害児者の職業生活を支えるためにも本人の生活の質(Quality Of Life)を保証し、自分の将来設計について見通しをもたせるようなライフプラン構築に向けた支援の在り方についての検討が求められている。

今回の研究では、就労生活を送る発達障害児者にライフプランの検討等を行い、キャリアプランを含む人生設計について検討した。

(方法)

1 対象者の概要

対象者ミウ(仮名、2X歳、女子)。6歳時に医療機関にて自閉症と診断された(療育手帳B2を取得)。A知的障害特別支援学校卒業後、スーパーマーケットに就労し、バックヤードの総菜部門を担当している。勤務時間は一日6時間で、水曜日、土曜日を固定の休日としている。産業現場等における実習(以下、「現場実習」)で、居住地から離れた同系列のスーパーでの実習経験を重ね、居住地近隣店舗での採用となった。対人面に課題がみられ、周囲の視線を過剰に意識して集団活動に参加できないことや、自己評価の低さ等、心理的な安定を支援の基本とする場面が多くみられる。

WAIS-IIIの結果(17歳3ヶ月)は、言語性IQ70、IQ62、全検査IQ64、であった。

就労移行支援のアセスメントの一つである、TTAP(TEACCH Transition Assessment Profile: 以下、「TTAP」)を実施した。TTAPフォーマルアセスメントの結果(16歳6ヶ月)は、直接観察尺度と家庭尺度の芽生え項目に差がみられた。

2 手続き

201X年11月の卒業後支援時(就職3年目)に、ライフプランシートの作成を行った。

(結果)

作成したライフプランシートをFig. 1に示す。

- 1 仕事: 総菜部門での業務内容が拡大し、「総菜」と「パン」の両方の業務を一人で担当できていた。出来立ての調理パンを店頭で並べ、お客様が見ている中、落ち着て商品を並べていた。また、貯金に関する意識が育ってきた。
- 2 家族: 成人式後には、母親と一緒に食事に出かけることが増えた。
- 3 趣味: 大好きな犬の世話や、化粧品を中心とした買い物を休日の楽しみの一つとしている。
- 4 社会活動: 地域の行事に参加する等はないが、後輩で

ある実習生へのアドバイスを的確に行っていた。

5 スキル: 焼き物業、パンの業務等、総菜部門内の業務をほぼ一人で担当できるようになった。フライヤーと大型包丁は使用していない。勤務店舗の改修時期に伴い、支店3か所の総菜部門へ出向した経験が、ミウにとって大きな自信となった。

6 友人: 後輩とメールでのやりとりが続く。同級生の現状が気になっているが、自分から連絡を取ることはない。

	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳～
仕事	・総菜部(パン)の仕事 ・貯金				
家族	・母親と外食(お酒) ・姉と離れた生活				
趣味	・犬の世話 ・買い物(化粧品)				
社会活動	・わかりません				
スキル	・パンの仕事 ・他店舗での応援業務				
友達	・後輩とメール ・学校の友人と離れた生活				

Fig. 1 ライフプランシート(就職3年目)

(考察)

ミウは「パンを作りたい」との希望を持っていた。現場実習では、就労継続支援B型事業所でパンの軽量や販売準備等を経験した。また、現在の勤務先での業務内容に「加工パン部門」があることを知り、仕事への憧れを持ち続けながら現場実習を重ねた。

ミウに現在の仕事について質問すると、「もう少しきれいに作りたい。」と希望を伝えてきた。先輩のスタッフからは、ミウの誠実な勤務態度と丁寧な仕事等についてほめていただく機会が多く、職場内での居場所を感じながら仕事に取り組むことができていた。

ライフプランシートを見ると、10年後、20年後の生活を具体的に思い描くことが難しい様子が見られたが、今後も安定した勤務を続けていきたいと希望していた。事業所側がミウの特性を理解し、業務内容が定着できるように工夫したことや、無理のない範囲でのスキルアップの検討等が、勤務継続につながっていると考える。

現在の就労生活を振り返りながらライフプランニングを行うことで、自己理解を深め自分自身の将来像についてさらに検討することができた。今後は、本人が望むライフプランが構築することができるように、地域における就労支援組織による包括的な支援を充実していく必要がある。

(文献)

- 1) 島田博祐・大沼健司・清水浩(2013)知的障害児者のライフキャリアプラン構築に関する研究—成人知的障害者と特別支援学校高等部生徒を対象に—, 日本特殊教育学会第52回大会論文集。

(SHIMIZU Hiroshi)